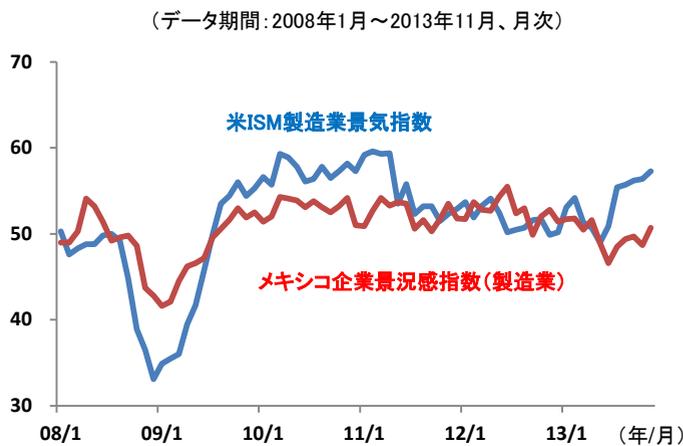




12月6日発表のメキシコの政策金利の据置きについて

- メキシコ中央銀行は、12月6日の金融政策決定会合において、政策金利である翌日物貸出レートを、現行の3.5%に据置くことを決定しました。市場予想の大半は「据置き」予想でした。次回の金融政策決定会合は1月31日。
- メキシコ中央銀行は、声明文で、今回の据置き理由とメキシコ経済の現状について以下のとおり言及しています。
 - ・2013年の世界経済はわずかながら改善していますが、新興国をはじめ、成長率が鈍化しているところもあります。
 - ・メキシコの2013年第3四半期の経済成長は少し回復しました。主に輸出と政府支出の伸びが貢献した形ですが、個人消費、投資、労働市場はまだ回復には至っていません。
 - ・インフレについては、歴史的な低水準で落ち着いており、2014年に政府の税制改正の影響で上昇したとしても、一時的な要因にとどまると考えられます。
 - ・国際金融市場のボラティリティは、海外からの資金調達状況、資金流出の状況等によりますが、メキシコのソブリン・プレミアムは比較的安定しています。
 - ・現在のインフレ水準は、中期的なインフレターゲットを満たすものであり、現在の金融政策を維持することが適正であると判断しています。
- メキシコのファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)は良好で安定しており、メキシコ経済は緩やかな回復を辿り、メキシコ株式、メキシコペソは緩やかに上昇し、メキシコ国債利回りは横ばいから上昇を予想しております。

【図表1: 米ISM製造業景況指数とメキシコ企業景況感指数(製造業)の推移】



【図表3: メキシコペソ円、米ドル/メキシコペソの為替レートの推移】



【図表2: メキシコ政策金利と国債利回り(5年)の推移】



【図表4: メキシコ株式(ボルサ指数(IPC®))の推移】



出所: 図表1~4は、ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成